

5 地域を創る

529億円 (対前年 +25億円)

- 中山間地域では、人口減少や少子高齢化に伴い、今後も存続が困難な集落が発生
- 道路網の整備や空港・港湾の機能強化など、交通ネットワークの更なる充実が必要

「地域の活力・魅力」や「ひと・ものの流れ」を創り出す政策を強化

<p>活力と魅力 あるまちづくり</p>	<p>49.7億円 (対前年+6.2億円)</p> <p>② 増 県立医科大学薬学部の整備(+3.1億円) ② 増 南紀熊野ジオパークセンターの整備(+2.4億円)</p>	<ol style="list-style-type: none">1 ストレスフリーな公共交通ネットワークを整備 (P55)2 持続可能なふるさと生活圏について考える機会を創出 (P56)
<p>地域をつなぐ ネットワーク</p>	<p>479.3億円 (対前年+19.0億円)</p> <p>② 増 近畿自動車道紀勢線すさみ串本道路等の整備に係る直轄負担金(+14.0億円)</p>	<ol style="list-style-type: none">3 経済活動の基盤となる道路ネットワークの整備 (P58)4 自転車利用を促進するための環境を充実 (P59)5 民間のノウハウを活用した南紀白浜空港の活性化 (P60)

5 地域を創る

◇新規・拡充

◇継続

・金額単位のないものは千円単位

・()内は昨年度当初予算額

活力と魅力のあるまちづくり

1.和歌山が誇る豊かな自然の継承

◇世界農業遺産の推進 13,434 (6,456)

世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」を活用し、梅の販売促進や観光振興等に取り組むとともに、東アジア農業遺産学会を開催

◇ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた取組の推進【再掲】

349,921 (106,033) P53

「南紀熊野ジオパーク」のユネスコ世界ジオパーク認定に向け、南紀熊野ジオパークセンターの整備と研究・教育活動を強化

◇生物多様性と和歌山戦略の推進 67,435 (40,816)

和歌山県の生物多様性を保全するため、里地・里山環境の保全に取り組む団体を支援するなど、「生物多様性と和歌山戦略」を推進

2.和歌山が誇る文化遺産や景観の保存・保全と活用

◇歴史資料のデジタルアーカイブ構築 1,625 (-)

過去の和歌山を記録した写真や古文書など、貴重な歴史資料の散逸・消滅を防ぎ、広く親しむ機会を提供するため、デジタルアーカイブを構築

3.賑わいのあるコンパクトな都市づくり

◇賑わいのある魅力的なまちづくり 11.2億円 (6.4億円) P54

賑わいと魅力あふれるまちづくりを推進するため、まちなか居住を誘導する市街地の再開発等を支援するとともに、空き家対策を促進

◇バス利便性向上促進【再掲】 13,334 (-) P55

鉄道やバスのスムーズな乗降・乗り換えを実現するストレスフリーな公共交通ネットワークを整備

◇歩道整備の加速化【再掲】 24.3億円 (25.4億円)

歩行者の安全な通行を確保するため、利用状況や周辺環境に応じた整備手法を用いて、通学路など生活道路の歩道整備を加速化

4.個性豊かで暮らしやすい中山間地域づくり

◇持続可能なふるさと生活圏づくり 1,144 (-) P56

人口減少の中、地域での生活を守るため、ふるさと生活圏の維持や持続可能な地域公共交通ネットワークについて考える機会を創出

◇移住・定住大作戦 147,417 (210,442) P57

「わかやま暮らし」を希望する都市住民の不安を解消するため、若年移住希望者に、最長1ヶ月の「しごと」のある「くらし」体験を新たに提供

5.交流人口等の増加による地域の活性化

◇和歌山県人会世界大会の開催に向けた準備 - (-)

国内外の和歌山県人会が一堂に会する「和歌山県人会世界大会」を2019年度に開催するための準備に着手

地域をつなぐネットワーク

1.交通ネットワークのさらなる充実

◇道路ネットワークの整備

299.2億円〔②補正110.4億円〕(280.0億円) P58

企業立地や産業振興、活力ある地域づくりなど将来のチャンスを保障するものとして、高速道路や県内幹線道路等の早期整備を推進

- ・高速道路ネットワーク等の早期整備
- ・県内外の一体的発展に寄与する幹線道路の整備推進
- ・都市内道路及び基本的な生活に不可欠な道路の整備推進
- ・構想路線の具体化

◇総合的かつ計画的な自転車活用の推進

545,450 (711,945) P59

「自転車活用推進計画」を策定し、健康増進や環境保全等に有用な自転車の通行空間及び利用環境を整備するとともに安全利用を促進

◇南紀白浜空港活性化 52,181 (42,181) P60

民間事業者のノウハウを活用した空港運営や南紀白浜空港開港50周年を契機として、県内外からの空港利用を促進

ユネスコ世界ジオパーク認定に向けた取組の推進

平成30年度：349,921千円
(106,033千円)

「南紀熊野ジオパーク」のユネスコ世界ジオパーク認定に向け、南紀熊野ジオパークセンターの整備と研究・教育活動を強化

拠点整備

ジオパークの情報発信や調査研究の拠点となる
「南紀熊野ジオパークセンター」の整備を本格化
場所：串本町潮岬（潮岬観光タワーの西側）
工期：**平成31年夏完成予定**

活動強化

①研究助成

地質学、地球物理学などの分野で、国際的な研究発表が期待できる活動に対し研究費を助成

②教育活動推進

南紀熊野の大地の成り立ちや歴史文化等を内容とするテキストを、県内すべての中学生に配布し、授業等で活用



南紀熊野ジオパークセンターのイメージ図

ユネスコ世界ジオパークの認定へ

賑わいのある魅力的なまちづくり

平成30年度：11.2億円
(6.4億円)

賑わいと魅力あふれるまちづくりを推進するため、まちなか居住を誘導する市街地の再開発等を支援するとともに、物件の状態に応じた空き家対策を促進

まちなか居住を誘導する市街地再開発

1 和歌山市駅前地区

・市民図書館・商業棟・ホテルを整備 (2020年完成予定)



2 友田町四丁目地区 (和歌山駅周辺)

・病院・商業・住宅を整備 (2020年完成予定)

3 北汀丁地区 (和歌山城周辺)

・住宅・老人ホーム・美容専門学校を整備 (2019年完成予定)

空き家対策

様々な分野の専門家と連携し、相談体制を充実

物件の状態に応じた対策を促進

1 中古住宅の流通 ▶ 「どんどん使う」

・インスペクション (建物状況調査) の普及・啓発
・「マイホーム借上げ制度 (JTI)」の活用促進

2 空き家適正管理 ▶ 「そのままキープ」

・空き家所有者への適正管理に関する啓発活動
・「空き家の管理代行サービス」の体制づくり

3 管理不十分な空き家の除却・修繕

▶ 「新しく使う」

・特定空家等判断基準により市町村が対策を推進

和歌山市公立小中学校跡地へ大学を新設

- 1 和歌山県立医科大学薬学部 (2021年4月開学予定)
- 2 東京医療保健大学和歌山看護学部 (2018年4月開学)
- 3 (仮称)和歌山信愛大学教育学部 (2019年4月開学予定)



和歌山県立医科大学薬学部



東京医療保健大学
和歌山看護学部

バス利便性向上促進

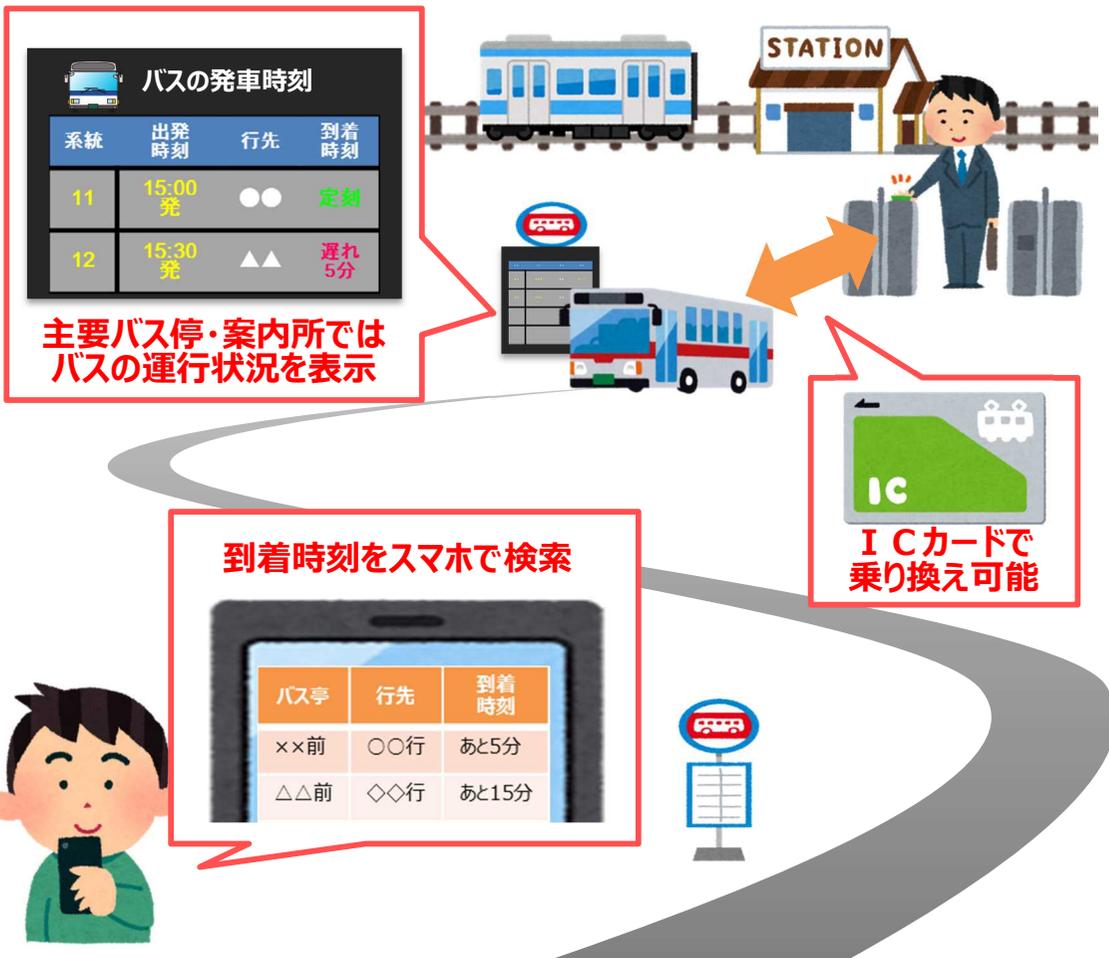
平成30年度：13,334千円
(新規)

鉄道やバスのスムーズな乗降・乗り換えを実現するストレスフリーな公共交通ネットワークを整備

事業概要

- 【目的】
路線バス事業者が行うICカードやバスロケーションシステム導入を支援
- 【補助率】
国1/3以内、県1/6以内、市町村1/6以内
- 【対象経費】
設備整備費、システム開発費等
- 【事業予定】
H30 バスロケーションシステム導入への支援
H31～ ICカード導入への支援

■ストレスフリーな公共交通ネットワーク



持続可能なふるさとと生活圏づくり

平成30年度：1,144千円
(新規)

人口減少の中、地域での生活を守るため、ふるさとと生活圏の維持や持続可能な地域公共交通ネットワークについて考える機会を創出

中山間地域では・・・

- 著しい人口減少や少子高齢化の進行
- 集落としての機能が急速に低下

存続していくことが
困難な集落が発生



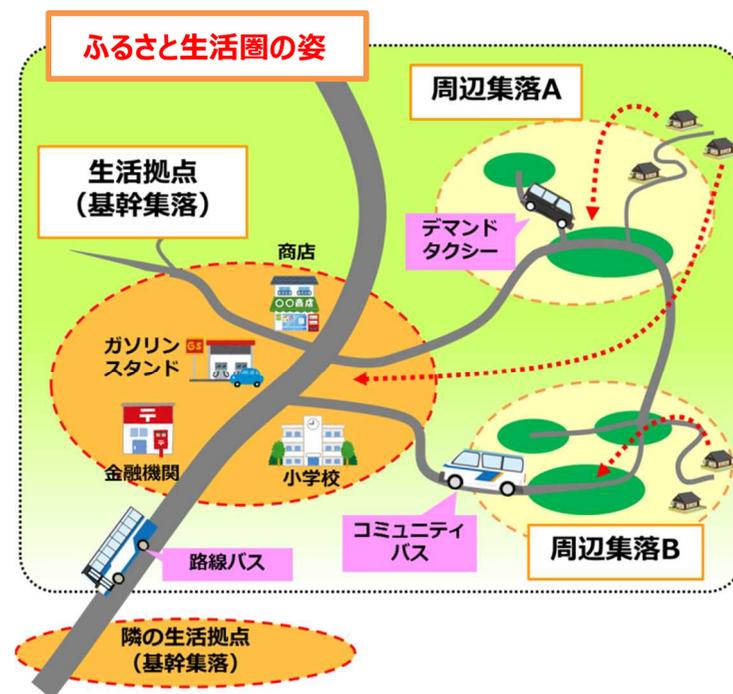
持続可能なふるさとと生活圏に向けて、まずはみんなで考える

1 ふるさとと生活圏の維持について考える

- ふるさとと生活圏の維持・活性化や集落再編について、住民に最も身近な市町村職員等の理解を深めるため、セミナーを開催

2 持続可能な地域公共交通ネットワークを考える

- これからの地域公共交通のあり方について、県・市町村・事業者・地域住民が参加し、共に考える研究会を開催



移住・定住大作戦

平成30年度：147,417千円
(210,442千円)

ひと

ついで

いのち

くらし

地域

「わかやま暮らし」を希望する都市住民の不安を解消して移住を促進



移住・定住を希望する人

情報発信・相談・訪問

- 1 ホームページ「WAKAYAMA LIFE」
- 2 東京・大阪・和歌山に常設相談窓口
- 新規** 3 若年移住希望者「しごと」のある「くらし」体験
- 4 現地体験ツアー（首都圏移住希望者は片道交通費助成に移行）

地域における強力なサポート体制

- 1 全市町村がワンストップパーソンを配置
- 2 受入協議会（地域住民等）による手厚い支援

「くらし」「しごと」「住まい」の支援

- 1 移住者の起業・継業支援（最大100万円）
- 2 農林水産就業への支援（最大50万円）
- 3 県統一版「空き家バンク」による空き家情報の提供
- 4 空き家の家財道具撤去費の助成（最大10万円）
- 5 空き家改修の補助（最大80万円）

移住・定住へ



事業概要

若年移住希望者に、最長1ヶ月、地域での「しごと」のある「くらし」体験を提供

- 1 市町村・受入協議会・事業者等による受入体制を整備
- 2 参加者と地域受入事業者とのマッチング
- 3 体験先での生活をサポート



わかやま暮らし

移住希望者と受入事業者をマッチング

「しごと」・「くらし」体験

最長1ヶ月までの長期滞在



「個人給付」から「体験」へ

道路ネットワークの整備

平成30年度 : 299.2億円
 平成29年度補正 : 110.4億円
 (280.0億円)

企業立地や産業振興、活力ある地域づくりなど将来のチャンスを保障するものとして、高速道路や県内幹線道路等の早期整備を推進

1 高速道路ネットワーク等の早期整備

- ① 高速道路ネットワーク等 57.9億円 [②補正7.4億円] (43.9億円)
 すさみ串本道路や新宮紀宝道路の整備
 有田IC～南紀田辺IC間の4車線化
 (仮称)和歌山南スマートICの整備 (H30年度供用) など

2 県内外の一体的発展に寄与する幹線道路の整備推進

- ① 幹線道路網 115.4億円 [②補正39.6億円] (131.9億円)
 国道168号五條新宮道路 (相賀高田工区)
 国道370号(阪井バイパス H30年度供用)、国道370号(矢立～九度山)
 泉佐野岩出線外1線 (岩出橋 H30年度供用) など
- ② 府県間道路 20.0億円 [②補正6.9億円] (23.2億円)
 国道371号 (新紀見トンネル) など
- ③ ICアクセス道路 79.8億円 [46.5億円] (60.1億円)
 和歌山橋本線(和田～吉礼 H30年度供用)
 南港山東線(西浜3丁目～関戸1丁目) など

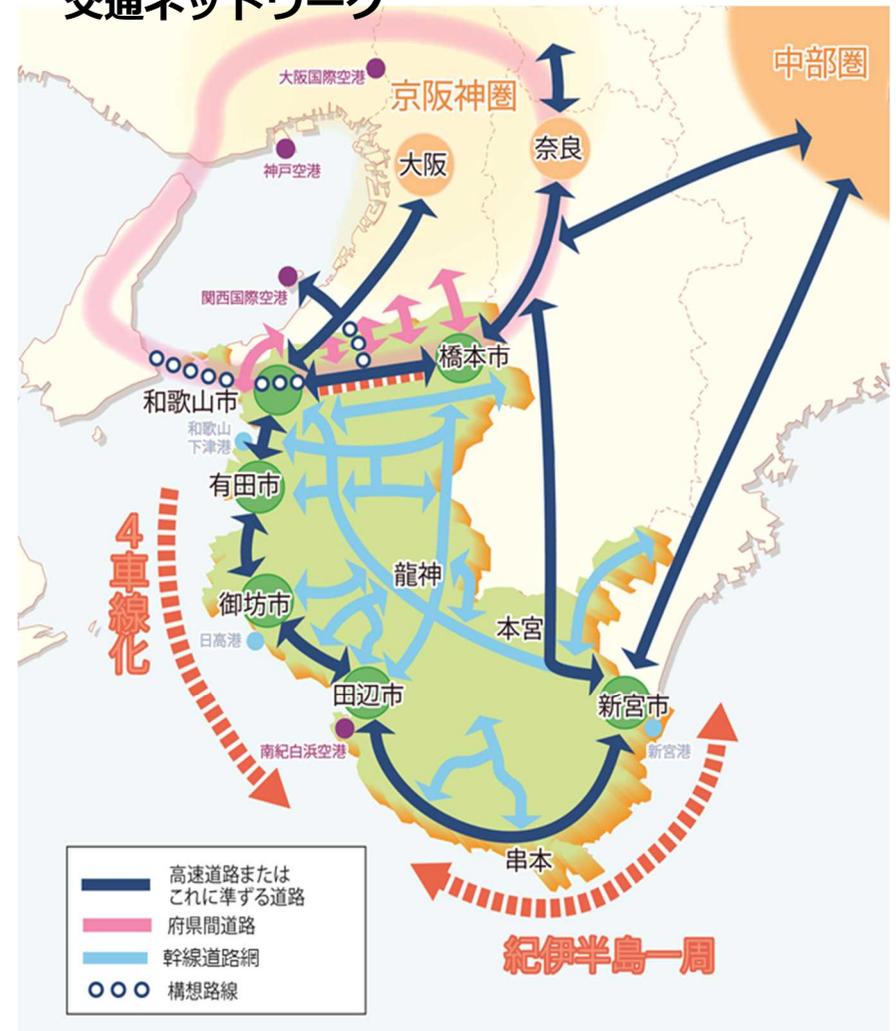
3 都市内道路及び基本的な生活に不可欠な道路の整備推進

- ① 日常生活の利便性向上に資する都市内道路及び
 基本的な生活に不可欠な道路 26.2億円 [②補正9.9億円] (21.0億円)

4 構想路線の具体化

- ① 京奈和自動車道の第二阪和国道への延伸
- ② (仮称)京奈和関空連絡道路 8.0百万円 (8.0百万円)

「ひと」・「もの」の流れを活性化する
 交通ネットワーク



総合的かつ計画的な自転車活用の推進

平成30年度：545,450千円
(711,945千円)

本県の実情に応じた「自転車活用推進計画」を策定し、健康増進や環境保全等に有用な自転車の通行空間及び利用環境を整備するとともに安全利用を促進

1 自転車活用推進計画の策定



- 平成29年5月
自転車の活用を総合的・計画的に推進するため、**自転車活用推進法が施行**



- 県の推進計画を策定し、自転車の利用を促進

(基本理念)

- 自転車は、二酸化炭素が発生せず、災害時に機動的
- 健康増進や交通混雑の緩和等、経済的・社会的な効果

(基本方針)

- 専用道路等の整備や観光旅客の来訪促進などを重点的に検討

2 サイクリングロードの充実



川・山・海の3つのサイクリングロードにおいて、

- ①専用化の推進や堤防天端道路への橋梁架設による直線化
- ②案内看板、路面表示の充実 など

より安全で快適な利用環境を整備



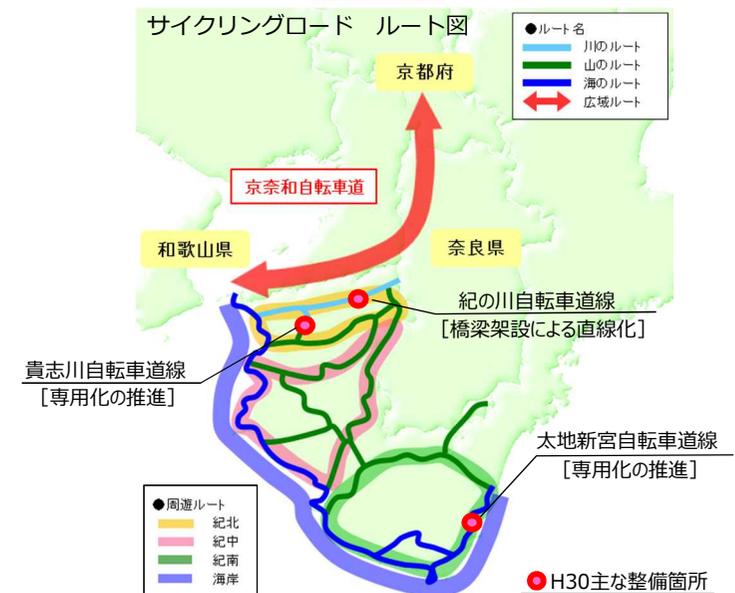
橋梁架設による直線化



専用道路（紀の川自転車道線）



路面表示



ひと
くらし
いのち

地域

南紀白浜空港活性化

平成30年度：52,181千円
(42,181千円)

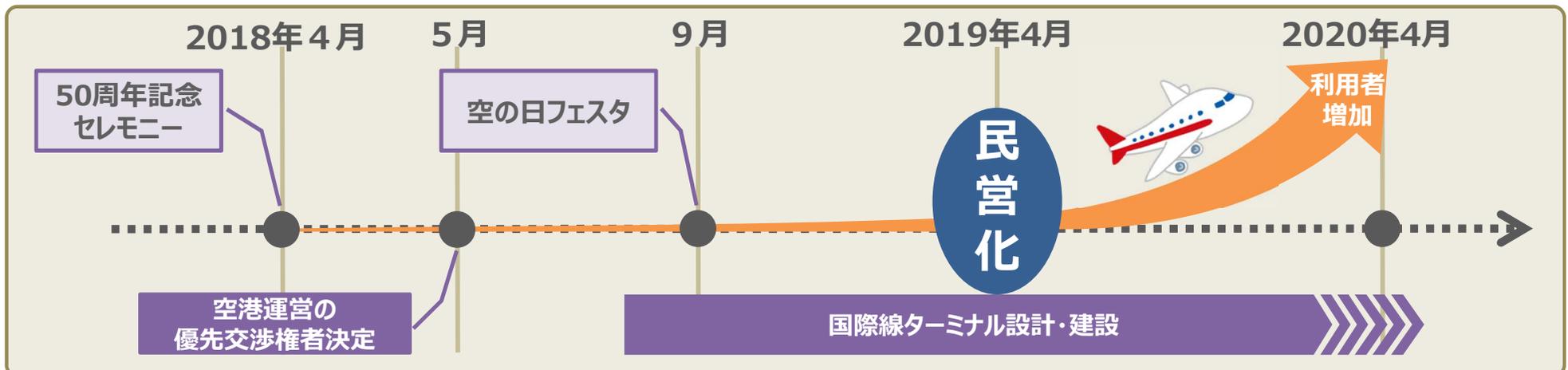
民間事業者のノウハウを活用した空港運営や南紀白浜空港開港50周年を契機として、県内外からの空港利用を促進

1 空港運営への民間活力導入

- **コンセッション（運営権設定）** の手法を導入
 - » 航空ネットワークの拡充
 - » 国際線に対応したターミナルビルの配置計画 等

2 開港50周年記念イベント

- **南紀白浜空港開港50周年**を契機として、空港の利用を促進
 - » 2018年4月 50周年記念セレモニー
 - » 2018年9月 空の日フェスタ（航空ショー開催）



ひと
つばと
いのち
くらこ

地域